

平成30年12月26日

日本学術会議物理学委員会 IAU 分科会
日本学術会議物理学委員会天文学・宇宙物理学分科会

提言「ハッブルの法則の改名を推奨する IAU 決議への対応」

1 現状及び問題点

宇宙の膨張を表す銀河の視線速度（後退速度）と距離の間の比例関係（遠方の銀河ほど速い速度で我々から遠ざかっているように見える）はこれまで「ハッブルの法則」と呼ばれて来た。このたび2018年8月20-31日にオーストリアのウィーンで開催された第30回国際天文学連合（International Astronomical Union: IAU）総会で、『宇宙の膨張を表す法則は今後「ハッブルールメートルの法則」と呼ぶことを推奨する』という決議が執行部から提案され、2018年10月に会員の電子投票で成立した（投票総数4060、賛成78%、反対20%、保留2%）。

一般社会にも広く浸透している「ハッブルの法則」の名称を変えることになるので、社会、特に学校教育現場で無用な混乱を生じることなく、新しい推奨名「ハッブルールメートルの法則」に次第に移行するよう対応を取る必要がある。

2 提言の内容

今回の決議は規則の改定という種類のものではないことを踏まえて、社会の各分野で以下の対応が取られることを希望する。

- (1) 教科書における記述変更は直近の改訂時に対応する。
それまでは現行教科書に対する特別の補充資料等は作らず、現場での解説で対応する。
- (2) 試験等で宇宙膨張の法則の名称そのものを問うことはしない。
各種の試験等で、宇宙膨張の法則の名称そのものを問うて、「ハッブルの法則」か「ハッブルールメートルの法則」かによって解答の正否が分かれるような問題は出さない。
- (3) しばらくの期間は宇宙膨張の法則の名称にこだわらない。学校教育現場に限らず一般社会でも、しばらくの期間は、「ハッブルの法則」と「ハッブルールメートルの法則」のどちらが使われていても問題とはしない。
- (4) 一般書やマスコミ等の記述、講演会などで用いる名称もできるだけ推奨名に。
今回の決議の趣旨には、「ジョルジュ・ルメートルとエドウィン・ハッブルが現代宇宙論の発展に根本的な貢献をしたことを賞賛し、将来の科学的な講演・論説・論文など

に対して歴史的事実を示す」ことが掲げられている。一般社会で用いる名称は基本的に担当者しだいであるが、IAU 決議の趣旨を踏まえて今後は「ハッブルメートルの法則」を用いることが望ましい。

ちなみに、ハッブルの名前を冠する学術用語はたくさんあるが、「ハッブルの法則」以外はこの決議の影響を受けることはない。